

令和4年度（2022年度）第2回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

1 日時 令和4年（2022年）8月24日（水）午前10時～12時

2 場所 南区役所 3階多目的ホール

3 出席者 計53名（出席者名簿のとおり）

- ・南区まちづくり懇話会委員 13名
- ・元南区まちづくり懇話会委員 8名
- ・熊本県立大学学生 7名
- ・熊本市職員 25名

4 内容

- (1) 開会
- (2) 区長挨拶
- (3) 南区まちづくりビジョンの検証のワークショップ
 - ・事務局説明
 - ・ワークショップ
- (4) その他
- (5) 閉会

5 ワークショップまとめ

基本目標ごとの意見

基本目標1（農・漁業）

【○】

- ・農業漁業の後継者への研修は達成できている。
- ・取組実績について、農業漁業ともに教育とイベントの面では達成できている。今後はより充実した事業内容を精査しながら実施していく。

【×】

- ・後継者を確保する支援と育成する支援が必要だがこの部分が課題である。

【×→○】

- ・新規参入者は個人で始めるよりも、組織や法人へ一旦就職して独立という方法がいいのではないかと。

【○→◎】

- ・近年はコロナ禍でイベント関係ができていないが、南区のいきいきフェスタ再開などを検討し、市民に農水産物の関心を高めてもらいたい。

<柴田会長>

統計的には南区の人口は増えているが、農業就業者数が増えているわけではないため、新規就業者の話題となった。一方で、新規転入者（特に子どもたち）向けの食育

が重要である。

基本目標 2 (歴史・文化)

【○】

・今あるツール（まち歩き手帖や校区カルテなど）をどのように活用し、地域の方に知ってもらうか、仕組み作りが大事。また、今ある仕組みをどう活用するかが大事。

【×】

・次の担い手が育たないと続かないので、子どもたちにどのように知ってもらうか。

【×→○】

・地域、学校、行政、家庭が連携して取り組みを行うことができないか。学校の総合的な学習の時間を使うなど工夫が必要。

・子どもに対する教育をどうするか。子どもだけでなく、親も参加できる仕組みをつくるのが大事。

・学校と連携し、クラブ活動で地域文化に触れたり、ものづくり体験、古墳宿泊体験など様々なアイデアがあり、各地域で活動を行っていくべき。

【○→◎】

・各校区にさまざまな文化財があるが、南区のフェスタや、文化財をめぐるバスツアーなど、人々が他の地域と交流し楽しみながら文化財に触れることで、見識を広げることができる仕組みを作り活用することが大事。

<柴田会長>

地域間での連携、子どもたちにどう伝えるかは重要。

基本目標 3 (自然・環境)

【×→○】

・様々な環境保全活動をやっている中で大事なのが子どもへの教育。小中学校への出前講座をやっているところもあるが、子どもの頃からの教育は重要。

・自然に関心がない人の底上げをするためには、講座の開設など人材育成のシステムづくりが必要。

・家の周り、地域の中、地域拠点でそれぞれに競わせる、もしくは地域の方が愛着を持てるようなアイデアを出しながら緑化を進める。

・緑化に関しては、入口、出口を整備すべき。例えば南区の特徴のある木や花をうまく使って、人が集まる場所（ホール、区役所）を整備する。

・緑化を進めるには維持管理にお金がかかる。地域の方への呼びかけやボランティアも含め、最小限の予算で維持管理できる仕組みづくりをすべき。

【○→◎】

・いきもんネットに登録されている団体はあるが、コロナ禍ということもあり集まりがない。プラットフォーム作りはできているが、さらなる認定、レベルアップをすべき。

基本目標 4 (健康・福祉)

【○】

・自分たちが楽しくなければボランティアは長続きしないので、ポジティブな気持ちで活動できている。

・日本人の食生活の大切さを知っていくには、教育が大切。

・高齢者が健康で生きがいを持って生活していくためには、いきいきサロンが大切な役割を持っている。

【×】

・サロンの参加者も運営するボランティアも高齢化する。担い手が少なくなってくるので、若い人にどうつないでいくかを考えるべき。

【○→◎】

・いきいきサロンの立ち上げ当初は1ヶ所だったが、現在では10ヶ所に増えたことで、固定化していた参加者も、地域の交流についても考えるようになり、生きがいをもつようになった。(川尻校区)

基本目標5（子育て）

【○】

・各まちセンで催しや、取り組みができるようになり、情報もまちセンからもらえるようになった。

・H29から南区の育児サークルの交流会が行われており、コロナ禍で休止していたが、今年は第4回目を開催予定。

【×】

・子どもたちの居場所づくりについて、各校区でサークル活動やナイスライ、子ども食堂、その他イベントを考えても、コロナ禍で会場の利用ができないなど、子育ての環境には問題が多かった。

・区役所から情報をもらって、子育ての課題を抱える方を支援する活動を行っているが、コロナ禍で情報をもらう機会が減った。

・2年前に子育て中の母親を対象にアンケートを実施したが、共有する機会が減り、アンケート結果を活用できていない。

【○→◎】

・今後は、どのようにしたら開催できるか考え、広い会場の確保をしたり、リモートやハイブリットでの開催ができるとよい。

・南区全体では子育てLINEの活用を呼びかけたい。

<柴田会長>

コロナ禍の話題が出たが、「それでもどうやったらできるのか」がポイント。

基本目標6（安全・安心）

【○】

・自主防災クラブの結成99%、地域版ハザードマップの実施90%であるが、ハザードマップを作っただけで終わりになってはいけない。

・ハザードマップの作成率が高いのは南区の特徴であり、誇れることだが、作成率が

高いからこそ、それをどう生かすかが重要。

・防災夏まつり、防災フォーラム、防災まち歩き、防災バスツアーが今後もできたらよい。

・校区防災連絡会、避難所運営委員会が概ね立ち上がった。

・防災まち歩きから危険箇所の整備ができた。

・関係機関との危険箇所点検ができた。

・防犯ネットワークでの見廻り

・こどもひなんの家へ子どもがあいさつに行った。

・低学年児童の見送り送迎を見守っている。

・小学校との通学路点検実施

【×】

・実際に起きた時のシミュレーションができていないか？

・校区防災連絡会の集まりが滞り気味という課題がある。

・専門職じゃないとわからないことがある。

・要配慮者の把握ができていない。

・意識の高い人だけが知っている。

・関心の高い人が高齢化している。

・新興住宅への転入で、地域を知らない人が多い。隣人同士の希薄化。

・つながりの希薄化、担い手不足、委員（関係者）の入れ替りによる継続性の難しさ

・温暖化による風水害のリスク

【×→○】

・防災意識向上のための解決策として、地域の防災士に自主防災クラブ、校区防災連絡会、避難所運営委員会等に参加していただき、活性化につなげる。

・地域が主体となって、どのような避難行動をとれば命を守ることができるかを考え、地区防災計画を作成し実行する。

「復興」と基本目標間の連携

基本目標 1（農・漁業）

【○】

・被災して壊れた倉庫や機械の復旧、農地の整備（土入れ）はできている。

【○→◎】

・備蓄倉庫の備蓄の量をさらに増やしてほしい。

基本目標 2（歴史・文化）

【×→○】

・災害時に、校区を超えて避難することもあるため、障がいを持っているなど支援が必要な方に対する避難の方法について、自治会と行政が一体となって考えるべき。

基本目標 3（自然・環境）

【×】

・各地域内で点検が必要。

【×→○】

・気持ちのいい競い合い、情報共有を各地域で行う。

・人材という点が大事なので、各専門分野のコーディネーターを作り、それをデータベース化し、コーディネーターを交えて子ども、大人の教育を行っていくことで、最新のことを学べるようにする。

基本目標 4（健康・福祉）

【○】

・地震後、人とのつながりに変化があった。炊き出しに多くの若者が携わってくれて、そこで地域の方と交流し、色々な経験ができた。

【○→◎】

・若者が一度やったこと、地域の方とつながったことがこれからどのようにつながっていくのか。若者の教育が今後の担い手につながる。

基本目標 5（子育て）

【○】

・各地域でも防災の活動が増えており、避難訓練や炊き出しの活動を行ったり、子どものサークルで防災イベントを開催したりされている。

【×→○】

・コロナ禍で集まりがなくなっているので、各家庭で話し合う機会を設けることが大切。

【○→◎】

・地震を知らない子ども達も増えてきているので、風化させないことが大切。

基本目標 6（安全・安心）

【○】

・校区防災連絡会や避難所運営委員会など、地域と行政が連携して避難所の運営ができた。

【○→◎】

・小学生でも防災士の資格を取得するなど、小さいころからの防災教育ができてきているので少しずつ充実できるとよい。